

# 与論島からの「移民」についてのオーラルヒストリー研究 ：森崎和江『与論島を出た民の歴史』の「その後」

藤村一郎(共通教育センター) 酒井佑輔(法学部)

## A プロジェクトの目的

1. 戦中期以降に与論島より他地域へ転出した「移民」コミュニティへの聞き取り調査や文献調査を実施し、未解明の「移民」の歴史を明らかにすることで、「鹿児島近代史」を与論島および「移民」の視点よりとらえなおす。
2. 上記の調査考察を進めるなかで戦後日本思想において注目される雑誌『サークル村』の中心人物であり、『与論島を出た民の歴史』を執筆した森崎和江についての新たな分析視角を得る。

## B プロジェクトの活動・調査内容

1. 大牟田・荒尾地区与論会の調査
2. 与論島を出た家族の歴史：島を出ていったもの、島に残ったもの、島を出て再び島へ戻ってきた者のライフ・ヒストリー聞き取り調査
3. 大牟田・荒尾地区ユンヌンチュによる社会運動についての聞き取り、文献調査
4. 大牟田・荒尾地区ユンヌンチュについての思想的・研究、文献調査

以下では、上記調査や研究によって得た成果のうち、まずは大牟田・荒尾地区ユンヌンチュ・コミュニティについて歴史的に概観し、彼らの特殊な歴史と時期区分を示す。



### 1 移民

1898	大暴風雨→大飢饉
1899	与論島を出て長崎口之津へ
1901	この年までに集団移民数は700名を超える

### 3 戦後

1945	敗戦
1946	与論島米軍占領下へ
1946	三池炭鉱労働組合結成
1947	共同植苑「与洲奥都城」の建設 与洲奥都城会の結成
1947	市議会議員を1名創出

### 5 再統合と「市民」化

1964	与洲奥都城会第3代会長に堀内治就任
1965	若松沢清『三池移住五十年の歩み』上梓
1971	森崎和恵・川西到『与論島を出た民の歴史』上梓
1977	与洲奥都城会から大牟田・荒尾地区与論会へ名称変更
2001	移住百周年記念誌『与論島から口之津へ』として三池へ』上梓
2024	口之津移住125周年記念事業 与論島へ里帰り

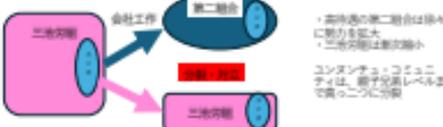
### 2 反発から組織化へ

1910	大牟田へ再移民
1919	陳事件発生
1920	与論共愛組合結成
1933	八・八同志会結成
1938	与洲同志会結成
1939	新港町社宅造成
1944	大牟田空襲

### 4 闘争・対立・分裂

1953	奄美諸島・与論島日本復帰
1959-60	三池争議
1963	三池炭鉱 炭塵爆発

#### 三池争議時の分裂



#### まとめ

- ・エスニック・コミュニティの特殊な歴史
- ・コロニアリズムの観点
- ・分裂から再統合へ向かう力とは？
- ・戦後思想の中で森崎が注目したのはなぜか？

主要資料・参考文献  
山田隆夫『三池争議』(労働大学, 1967, p.148). 若松沢清『三池移住五十年の歩み』(与洲奥都城会, 1965). 森崎和恵・川西到『与論島を出た民の歴史』(上梓, 1971). 大牟田・荒尾地区与論会『与論島から口之津へ』(1977~2001). 大牟田・荒尾地区与論会『口之津移住百周年記念誌』(与論島から口之津へ』として三池へ』(2001). 藤村一郎『大牟田・荒尾地区与論会』(2024). 『史料研究資料』(大牟田市立図書館編). 『歴史』(大牟田・荒尾地区与論会刊).